

泉

いずみ

―目次―

表紙 「勿忘（わすれな）の鐘」

百折不撓

震災十三回忌

包まれる

ネコ通信

連載「私の出会った神様たち⑳」

遺言⑥

掲示板・お知らせなど



撮影：中山蓮士

こち
東風に乗り 忘れなの鐘 どこまでも 博子

春がやってきましたね。もう桜は満開！コロナも花粉もありますが、桜はどんな年であろうと綺麗に咲き誇る！世の中何が起こつてようと、関係ないもんね！って感じですね。

突然ですが、こんな話ご存じでしょうか？

○様々な国の乗客を乗せた客船が沈没してしまう。助かるには、速やかに脱出し、乗客に海に飛び込んでもらうしかない！船長は、どうしたらみんなが納得して海に飛び込んでもらえるか考えて、各国の乗客に向かってこう言ったそうです。

アメリカ人↓「あなたは飛び込めばヒーローになれる」

イギリス人↓「飛び込めばあなたは紳士になれる」

ドイツ人↓「飛び込むのがルールです」

イタリア人↓「飛び込めばあなたは女性からモテる」

フランス人↓「飛び込んではいけない」

これで、各国の乗客は納得して飛び込んだようです。日本人はどうでしょうか？あなたは何と言われたら躊躇なく飛び込みますか？

船長は、「ほかの人はみんな飛び込んでますよ」と説明したようです。これはお国柄を鋭く捉えたエスニックジョークです。「たしかに！」と思ってしまう。(＊フランス人の「飛び込んではいけない」と言われ納得して飛び込むのか：と思うと不思議ですが)。

先日、近所のお寺の老僧がお亡くなりになり、ご葬儀に出仕させていただきました。住職(喪主)より、出仕前に「どうぞ、葬儀終了後退出前にみなさんお焼香していただきますと幸いです。」とご丁寧に案内を頂きました。葬儀が終わると、退出になるときに、お焼香をさせて頂くと思っておりましたが、最初(お焼香をするはずの方)に退出する方がお焼香をせずに退出されてしまい、「あれ？」と思いついて待っていると、全員お焼香せずに退出していきま

「え？」と思いましたが、私だけ列を乱して、お焼香をさせて頂きました。退出前、お隣の法中(お坊さん)に「お焼香しないんですか？」と聞きましたが、「あゝ」と生返事されながら退出される場面で、上に書いています。

ジョークを思い出してしまいました(ご葬儀でジョークを思い出すのは不謹慎ですが)。お国柄とはいえ、「お焼香してください」という喪主さんの想いよりも、みんな焼香しないから良いか：という同調的な感じで退出してしまう事に違和感がありました。これは一つの例ですが、普段生活している、このような場面って多いなあって思います。

なぜなのでしょうね。例えば、「目立つことはしないのが無難」という心理が働いているのでしょうか。その裏には、「目立つことをすると白い目で見られたり、変な人と思われる可能性があるから？」なのか。という事は、「集団で同じことをすることを『良し』として、集団とは違うことをすることが『悪し』とする雰囲気は漂っているから」ということもあるのかな。日本は小麦文化ではなく、米の文化。昔から、米を作るには水を絶やしてはいけないため、村の人々が協力して水路を作った協働的な習慣があることや、群れを形成しながら狩りを行うことで命を繋ぐという生きる術としての集団形成が、「心も動きも統合しなければ」死を意味する」という価値観がそもそも遺伝子に組み込まれているのでしょうか。

同じことをすること⇨価値のある事を意味するのであれば、そこから外れやすい障害のある方などの少数派はどんな社会から取り残されてしまう。取り残されないがために、「同じことをする」に合わせようとしても、それは少数派(社会的弱者)にとっては生きづらく苦しいだけ。だから、そのままの姿でお互いが尊重される多様性社会がこれからは大切になるのでしょうか。

ちなみに、日本人でも大阪人に海に飛び込んでもらうには「阪神が優勝した」と言えば良いそうです(笑)。

◆**法要表白**◆「今年で東日本大震災から十二年、仏教では、十三回忌と言って法事を行うことが一般的だ。まる十二年、干支(えと)が一巡した。◆今年はマスクミでは特に語り部のが取り上げられている。風化しないように、震災の記憶は、後輩に正しく伝えていかねければならない。震災を知らない世代が多くなった。◆でも、他人に自分の体験を語ることは途方もない勇気とエネルギーを必要とする。親を失い、子を失い、絶望の中をさまよった辛い体験を第三者に語ることは、個人差こそあれ、大きな葛藤を経なければ実現できない。◆海楽寺の大友終人(しゅうと)君は2019年、私たちが彼の話を聞きにいった時、初めて、泥まみれのランドセルを私たちの前で開封し、体験を話すことを実行した。彼は語り部としてデビューし、その誕生を私たちが応援した。◆それほどの決意と勇気を必要とする彼らの決断を、私たちは重く受け止め、決して聞き逃さない耳を持つべきである。◆そして、ただ聞いて感動するだけの私たちではもはやいけないのである。そこから学んだ教えを私たちは粛々と実践しなければならぬ。◆身の回りで、今できることは何か？避難準備はできているか？家族で話し合うことをしたか？地域で避難の訓練を実施したか？◆東南海沖地震の可能性がますます高まっている。語り部がどんな思いで、話すのか？それは、一人でも命が助かってほしい、自分たちの成功や失敗を必ず生かしてほしい、そういう彼らの思いに応えるのは私たちだ。◆トルコ・シリアでも悲惨な大地震で苦しんでいる人たちが大勢いる。地球上に災害の起きない日はない。私たちは幸運にも一日を無事生きられたことに感謝し、明日への希望を持ちながら、困難に

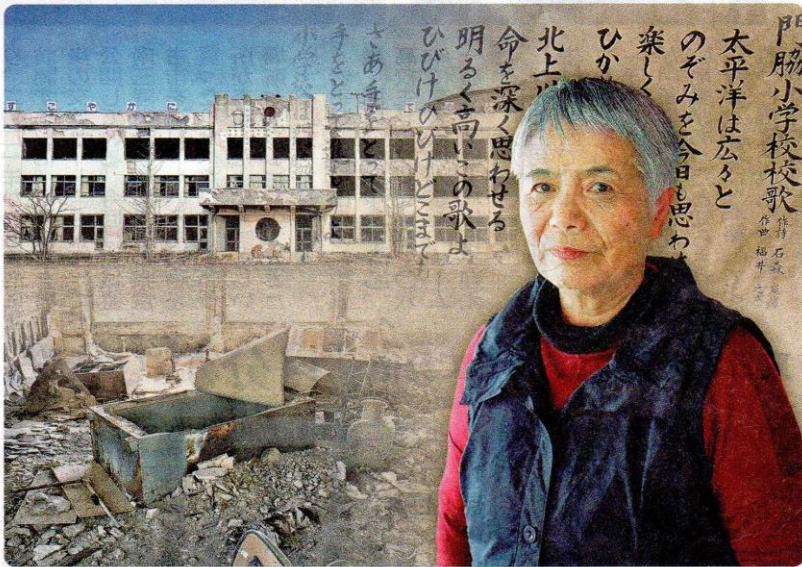
のだ。◆ゆっくり休もう。休息の中で、どんな事にも負けないしなやかな力を熟成させよう。慌てなくてもいい。地道に一歩ずつ進んでいこう。」

◆**取り留めもなくこのようなことを思った。**三月十一日には鐘を撞いた。その後、救急救命の実践を消防署員の指導で実施した。◆実は私は念願の防災士の試験に合格した。半年続けた勉強が実を結んだ。私は少しずつ前に進むと決めた。ハザードの会員を道連れに、自分が今できる事をした。



◆「善の研究」で知られる西田幾太郎は、子どもを何人も亡くすなど、不幸の連続を経験した。その頃から短歌を詠むようになった。◆「かにかくに思いし事の跡絶えて ただ春の日ぞ親しまれける」深い悲しみの中で、ふっとその悲哀が超えられる経験をした。◆何重にも悲しみが重なったところで、悲しみを包むものに出会った。（中日新聞・人生の頁・藤田正勝氏の文章を転用）◆石巻市の旧門脇小学校の校長であった鈴木洋子氏は、東日本大震災の時、殆どの児童をすぐ裏にある日和山へ避難させた。学校は1階にのみ津波が来たが、火災を起こした漂流物のために校舎は2階以上が全焼した。◆校舎に留まっていたら全員焼死したと思われる。海辺に面しているこの学校で鈴木校長は日ごろから避難訓練を怠らなかつた。◆児童には、なぜ訓練をするのかをきちんと教え、その意味を理解させたうえで訓練に臨ませたという。◆震災から半年後、鈴木氏は新たな表現手段を得た。短歌だ。「津波にて焼けし校舎に立つ我の耳朶（じだ）には児らのさんざめく声」元気に遊んでいた子どもたちの声が聞こえてくるようだった。◆「燃え尽きし教室棟は黒き洞の矩形となりて海へ開けり」校舎から「伝えなくてはならない！」と言われた気がした。◆鈴木氏は今も短歌を交えて全国各地で体験を語り伝えていく。「語れども語りしのちに言い知れぬ思い沸き立つ語り部のわれ」（中日新聞・2月27日夕刊より転用）◆二人が短歌を詠むきっかけとなった理由は、抱えきれないほどの悲しみや苦しみを短歌で

表現すること、心が癒される何かを感じたからだと私は考えた。藤田氏の言う「悲しみを包み込む何か」を二人は短歌に感じたのではないか。◆以前、神戸の「幸せなふくろう」という店で、早川店長が出してくれたほうじ茶もまさにその一例だった。重厚な民芸調の茶托に乗った、大ぶりの湯飲みに注がれた芳醇なお茶は、当時ストレスに満ちた私の心をほっこりとほぐしてくれた。◆その時も私は何かに包まれていると感じた。◆短歌を詠むこともきつと自分が何か大きなものに支えられていることを実感する行ないなのかもしれないと思う。



歌を交えて、震災の経験と教訓を語りつづける鈴木洋子氏。「最後の校長」を務めた宮城県石巻市立門脇小学校（左上）は震災遺構となり、破壊された校長室（左下）など、津波と火事で被災した姿を伝える。右上は校歌の一部

ネコ通信 2023年3月

この前、ふーくんがかぜをひいてしまいました！💧

私が学校から帰ってきたら嘔吐がありました！！

それが、一週間も続いてしまいました。私はぼあぼと病院に行きました。ちゅうしゃを2本うちました！ふーくんが不安そうに何度もないたり、体をビクッとさせたりしていました。車の中でもすごく太い声で「ニャーン」となっていたので私が「もう少しでお家につくよ〜！」と、いったらすごく明るい声になりました！ふーくんは私の言うことが分かるのかなと思いました。私が「ふーくんなっちゃんおいで〜」と言うとすぐ来ます。ねこが人間の言うことが分かるのかもしれないな〜。と、おもいました。

ふーくんは、もう元気で今も外で走り回っています！なっちゃんも風邪を引かずにすみました！！すごくかわいいです♡



母の愛②

◆縁側に連れて行って、今日は幼稚園でどんな歌を習ってきたの。おばさんに聞かせておくれ。あなたが一つ歌って、もう行っちゃおうとするよと止めて、お菓子をあげるからもう一つ歌ってちょうだい、いい子だからもつと大きな声で歌ってくるといいんだがなあ、と言ったね。◆おばさんがあんまりしつこく言うものだから、あなたは怒ってどっかにいっちゃったけれど、あれは離れでお母さんが一生懸命耳を澄ませていらっしやることを知っているから、あなたの声が少しでも遠くまで届くようにというせめてものおばさんの思いやりだったのですよ。」とこのときおっしゃいました。◆そうだったな、と僕も心当たりがございました。非常にびっくりいたしましたと同時に、母にたいして本当に申し訳ないと思えました。◆母が死んだとき、僕は涙もこぼしませんでした。自分に辛くあたった母ですから、死んだときにも悲しくも何ともなかったのです。涙もこぼさないでお棺の蓋を閉めてしまった子供でした。そのことを非常に申し訳ないと思えました。◆それから母があんなに離れで、そんなにも僕の歌う声を聴きたがっていたのかと思いますと、いまだにこの年になっても後悔の念でいっぱいです。

◆先程のように、頼まれもしないのに勝手に

歌う僕ですから、こんなことならもつといっぱい歌ってあげたらよかったと思えました。◆おばさんが続けておっしゃるには、「私はある可哀そうだし、お母さんもあんまり可哀そうだから、お母さんに意見を聞いてあげたことがあります。『いっそのこと病院に入ってしまったらいいじゃありませんか。病院に入ってしまったら、子供は最初はさみしがたって、だんだん慣れてくるものですよ。あなただって、毎日毎日あなたに会いに来る子供に物をぶっつけて追い返して、わざと憎まれるようなことをしているけれども、実の子供にそんなことまでして憎まれなくても、病院に入ったほうがお互いのために良いのではないですか。』と申しました。」(続く)



◆敏彦氏に試練が待ち構えます。それは、自分が猛然と働いていると、部下もそうなる。部下がそうしないのは、努力が足りないからだ、部下を責める。そういう経営方針が間違っていると、叱る方(かた)に巡り合ったことが述べられています。◆これは私にも全く当てはまることで、悪いのは相手だ、自分はこんなに頑張っているのに、と愚痴の一言も出ることにがしよつちゆうです。◆しかし、それではリーダー失格でしょう。真のリーダーはまず部下に「こんな人になりたい！」と思わせなくてはならないと思います。言わなくても、尊敬と憧れを持たせることのできる人です。がなっていては誰もついてこないでしょう。◆敏彦さん、試練の時です。

(続く)



野呂敏彦の流儀。

「人間が真ん中で
人間がすべて」

真のリーダーの道

私が経営者としてやってこられたのは、

1. 学歴がなかったおかげ
2. 若いころ貧しかったおかげ
3. 若くして自分の将来を見据えたおかげ

ここまでは、前頁まででお話ししました。

そして、私が素晴らしい仲間たちや素晴らしいお客様とめぐりあい、今日までコンサルタントとして、一人の経営者とやってこられたのは

4. 真のリーダーの道を学び、この真のリーダーの道を「実践」したからであります。

創業からしばらくは私が稼働した売上で会社を維持していました。そのため出るのは怒りと愚痴ばかり……。俺が頑張っているのだから頑張れ！自分を変えろ！売上を確保しろ！同じことを毎日繰り返し苦惱し、また今日も同じことが始まる……会社を維持するために頑張る社長でした。

ある日、名古屋のご支援先の社長から、突然呼び出された時のことでした。社長は私の目を見るなり「あなたの指導は間

違っている」と激怒されたのです。当時の私は、研修中は「寝ない」「食わない」「風呂に入らない」「トイレに行かない」というほど全力投球で指導していました。社長は、自身の社員が「野呂先生の研修を二度と受講しない」と言っているというのです。そして「熱意(ホット)だけでは動かない。あなたは素晴らしい指導をしているのだから、この書籍を読めばきっと過ちがわかる……。」と手渡されたのが「真のリーダーの道」でした。



4月の行事予定

和讃講

一日 (土)

文芸クラブ例会

十三日 (木)

写真クラブ例会

十五日 (土)

おみがき

二十二日 (土)

春季永代経

二十九日 (土)

今月の掲示板

現場に立って感ぜよ!

児玉 絃浩

お檀家さんの児玉さんは、日航機墜落現場の御巢鷹山追悼登山を毎年実施しています。現場でないと、分からない何かがある。私たちハザード会の被災地研修も全く同じ気持ちで行っています。

こずみのほしり

◆今月号は被災地研修のため、発行が遅れます。ご了承下さい。成果は五月号で報告します。

◆盛りだくさんの付録を付けました。観光協会の理事から宣伝です。「びゅーあいさい」に蓮ワークが紹介されました。好評につき二度実施となりました。観光船も解禁されました。私にご相談下されば割引も可能です(一回きり)。映画会の紹介もいたします。是非ご参加ください。永代経では再び森先生にお話をさせていただきます。お聞きそびれの方は是非どうぞ。(老僧)

◆開かれたお寺を目指して、安泉寺は色々な企画を考えています。また、他団体からも、お寺の場所をお借りして色々な行事をしたとの要望がぼつぼつ寄せられるようになりました。特に地元の方々には気軽に集まって頂き、行事に参加していただくことも嬉しいです。「お寺はなんか楽しいことをやってるようだ。」と思っただけであればいいと思います。(老僧)

◆別院のデラボラネットワークという団体が募金を行っています。災害支援の募金です。私たちの被災地研修にも寄付をいただいているので、家族で募金に出かけました。小蓮に沢山の方が募金してくれました。有難うございました。(老僧)



Kさんの絵手紙